

北海道下川町の概要

- 人口約3,000人、高齢化率約40%の小規模過疎地域。
- 下川町自治基本条例の前文に「持続可能な地域社会の実現」を位置付け、森林総合産業の構築（経済）、超高齢化対応社会の創造（社会）、エネルギー自給と低炭素化（環境）といった経済・社会・環境の3側面の価値創造、統合的解決に取り組み、豊富な森林資源等を活用しながら、「持続可能な地域社会の実現」を目指す。
- 持続可能な森林経営を中心に、適正な木材・木製品の生産と供給、森林を健康や教育への活用、未利用森林資源の再エネ活用、再エネ熱供給システムを核としたコンパクトタウンなどを推進。
- 「2030年における下川町のありたい姿」を策定し、町独自に7つのゴールを設定。総合計画の将来像に位置づけ。



SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業に選定

経済

“循環型経済”を創る

- 林業の川上～川下のシームレス産業化
- 地域経済循環システム構築
- 多様な人材登用、生産効率向上に向けた先端技術導入実証
- 農産物の地域循環型流通システム

など

社会

“住み続けられるまち”を創る

- 中心市街地居住環境計画、健康省エネ住宅の推進
- 未来人材育成、子育て支援医療介護福祉連携強化
- 除雪システム高効率化、レジリエンス強化
- 町民参加推進

など

環境

“脱炭素社会”を創る

- 森林バイオマス利用拡大
- 一の橋バイオビレッジ脱炭素コミュニティ
- 省エネ家電レンタルシステム構築
- ゼロエミッションとエシカル消費促進

など

実施支援

統合的取組

経済×社会×環境

SDGsパートナーシップセンター（SDGs-PC）拠点構築

地域内外の企業や団体が双方の強みを生かし弱みを補完するためパートナーシップを形成。社会課題を解決するとともに“自治体SDGsモデル”を国内外へ展開（共創と展開の拠点）

カーボン・オフセットの取組

下川町では、豊かな森林資源を活かしたまちづくりの一環として、北海道内で森林や林業を基盤としたまちづくりを進める足寄町、滝上町、美幌町と下川町の4つ町（北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会）でカーボン・オフセットの取組みを推進しています。

カーボン・オフセットは、個人や企業が排出する二酸化炭素などの温室効果ガスをできるだけ減らすよう努力し、それでもなお出てしまう分について、森林保全活動や再生可能エネルギー導入などに投資することで得られる温室効果ガスの吸収量や削減量で埋め合わせることです。

下川町では、森林の適切な管理によって得られるCO₂の吸収量について認証を受ける（クレジット化する）とともに、企業や団体などからの協賛をもとに、健全な森林保全を進めております。

▼森林吸収プロジェクト

①北海道4町連携による間伐促進型森林づくり事業



▼排出削減プロジェクト

②下川町五味温泉等森林バイオマスエネルギー活動事業

③下川町役場周辺地域熱供給システムバイオマスエネルギー活用プロジェクト



←詳細は、北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会ホームページをご覧ください。